知事と県民の意見交換会（由利地域振興局）議事要旨

○　テーマ　：　地域にもっとスポーツのチカラを！
○　日　時　：　令和５年７月７日（金）10：00～12：00
○　場　所　：　【視　　察】竹嶋潟スケートパーク
　　【意見交換】にかほ市多目的屋内運動場「エスパーク★にかほ」

知事挨拶

県民の皆様の御意見を伺うため、「知事と県民の意見交換会」を14年間全県で様々なジャンルで活躍する方と実施してきた。市町村長や農協、漁協、商工会などの代表者や役員とお話しする機会はよくあるが、一番大事な現場で活躍している方や若い方の話を聞く機会はあまりない。地域活性化には、よそものや若者の力が必要だと言われるが、10年後には皆さんが社会の主翼を担う世代になる。県としても、10年後、20年度を見据えながら施策を進めていく必要があるが、14年間この会を実施してきた中で、様々ないいヒントがあり、翌年度にすぐ事業化したもの、制度を変えたものもある。

今日は皆さんから今思っていること、これからの希望などについてお話いただきたいと思っている。県外出身の方には秋田のいいところや直した方がいいところ、地元出身の方には地域の資源をどう生かしていくのかなどについて、若い人の現場目線で御意見をいただきたい。

意見交換

（局長）

スポーツを通じた交流の場づくりについて、Ａさんは子ども向けの運動教室を主宰されているが、立ち上げの経緯や、具体的な活動内容を教えてほしい。

（Ａ氏）

昔は野原を駆け回ったり、お手玉やけん玉、コマ回しといった遊びを通して無意識に色々な動きをして、体の動かし方を覚えることができたが、今の子どもたちは公園へ行っても思い切り走れなかったり、騒音の問題があって近所で遊べなくなったりして、体を動かす機会が減っている。そんな子どもたちに自分が思い切り体を動かせる機会と場所を作りたいと考えたのが子ども向けの運動教室を始めたきっかけである。

「ゴールデンエイジ」と呼ばれる年中児から小学２年生くらいまでに体の使い方を身につけると、次に新しく覚えることが身につきやすくなったり、けがをしにくくなったりすると言われている。子どもたちが楽しく遊びながら無意識のうちに体の使い方を自然に身に付けることができるように指導している。

（知事）

昔の子どもは山で藪をこいで遊んでいた。山にあるものは全部遊び道具で、木登りが得意な子どももいたのに対して、今の子どもたちは制約が多い。

（局長）
運動教室を通して子どもたちに伝えたいことは何か。また、子どもたちを取り巻く環境を踏まえて、今後取り組みたいと思っていることはあるか。

（Ａ氏）
子どもたちに運動を強制するのではなく、体を動かすことは楽しいと思ってもらいたい。今後は、週１回の運動教室に加えて、土日に親子向けのイベントなども開催したいと考えている。

（局長）
同じくスポーツを通じた交流の場づくりについて、Ｂさんは、若者たちが交流できる居心地のいい場所「アベイバ」を作る活動をされているということだが、具体的にどのような活動をされているのか。

（Ｂ氏）
令和４年度は 20～30 代の若者を対象にしたイベントを 15 回実施し、市内外からたくさんの方に参加していただいた。月１回のペースでスポーツイベントを開催したほか、リースづくりやクッキングイベント、目の前に鳥海山が迫る鳥海国際禅堂というお寺で座禅体験をするイベントなどを開催した。「アベイバ」を通して自分では行けないところに行ってみたり、イベントをきっかけにそれまで知らなかった場所を訪れてみたりしてほしいと考えている。

（局長）
「アベイバ」づくりに取り組む上で、気をつけていることや工夫していることなどがあれば教えてほしい。

（Ｂ氏）
最初はなかなか参加者が集まらなかったが、半年後くらいから徐々に参加者が増えていった。誰がやっているか分からないイベントだと行きづらいという声を受けて、どんな人たちがやっているイベントなのかを見せることを意識するなど、ＳＮＳや口コミなどで徐々に参加者を増やしていった。
地元民として存在は知っているけど行ったことはない、というような場所を取り入れること、一人での参加や初参加の方の期待を裏切らないように、参加者が孤立しない雰囲気作りや目配りを特に気をつけている。

（局長）
活動を通して感じている手応えのようなものがあれば教えてほしい。

（Ｂ氏）
楽しいからこそまた来てくれていると思うので、リピーターがいるのはうれしい。

（局長）
知らない人同士が集まるイベントでは、みんなで何かを一緒にやる、というのも大事だと思うが、何か工夫していることがあれば教えてほしい。

（Ｂ氏）
参加者にどんなイベントを開催してほしいか聞き、その声に応えることでいいサイクルができていると感じている。

（局長）
Ｃさんは、Ｂさんと一緒に「SPORTS NIGHT」という若者向けのスポーツイベントを定期的に開催されているが、このイベントについて詳しく教えてほしい。

（Ｃ氏）
「SPORTS NIGHT」は、平日の夜にちょっと寄り道できる場所がほしい、という若者の声から生まれたイベントである。本気でスポーツをするのではなく、参加したいときに参加するというようなゆるやかな集まりで、おしゃべりやスポーツを通してリフレッシュしてもらうことを目的としている。

（局長）
交流のきっかけをつくるためのツールとしてスポーツを活用されているということだが、どういった方がこのイベントに参加しているのか。

（Ｃ氏）
サークルに入るほどではないけど少し運動したい、久しぶりに体を動かしたい、会社外に友だちをつくりたい、移住してきたばかりなのでこの地域についてもっと知りたい、など参加理由は様々である。

（局長）
参加者の反応はどうか。

（Ｃ氏）
月１回ではなく週１回でやってほしいという声やスポーツを通じてみんなと交流できたといった声が聞かれた。ここで仲良くなった人と遊びに行ったという話をしてくれた人や、一人でも安心して参加できたと言ってくれた人もいて、非常にうれしく感じている。

（Ｂ氏）
例えば、知らない人同士が集まってバドミントンをしましょう、といってもなかなか入っていけない人もいると思うので、最初は全員でドッジボールをするようにしている。
スポーツは言葉のいらないアイスブレイクだからこそ、自然な交流が生まれやすいと感じている。誰かからパスをもらったり、ラリーが続いたりするだけで、初対面同士でも笑いが起きたり、相手に受け入れられた気持ちになったりする。新しい出会いがありそうだ、ここには自分の居場所がある、と感じてまた参加してくれるリピーターも多く、いいコミュニティができている。他の市町村でもぜひこういったイベントを開催してほしい。

（知事）
イベントの開催には費用がかかるのではないか。

（Ｂ氏）
施設の使用料は減免を受けており、パンフレットも自分たちで作っているので、経費はほとんどかかっていない。

（局長）
今後取り組みたいと思っていることは何か。

（Ｂ氏）
キックボクシングやバトントワリングなど、参加者それぞれに得意なことがあるので、参加者に先生になってもらう時間を設けて、参加者同士が趣味や得意なことを共有できるイベントも企画したい。また、ナイスアリーナの鳥海ラウンジで「若麦交流会」というお酒とおしゃべりを楽しむイベントを開催する予定。こういったスポーツ施設の新しい活用方法も考えていきたい。

（知事）
参加者の男女比はどうなっているのか。

（Ｂ氏）
毎回ほぼ半々である。新規とリピーターの割合も毎回ほぼ半々となっている。

（局長）
Ｄさんは、昨年秋田県立大学の学生が企画したフットサル大会の協賛企業として、資金面から運営面まで幅広く支援されたということだが、支援することになったきっかけを教えてほしい。

（Ｄ氏）
当社の代表とフットサルチームのリーダーが居酒屋で出会ったのがきっかけ。大会を支援してくれるスポンサーを探しているということで、協賛企業として支援することになった。
プロスポーツチームで働いていた経験を生かして、資金面の支援だけでなく、スポンサーの集め方から大会の運営まで手厚く支援した。

（局長）
大会は成功裏に終わったと思うが、学生の持つ力についてどのように感じたか。

（Ｄ氏）
学生たちはやりたいことがあっても資金がない。大学側は制約が多く、学生への金銭的な支援は難しいが、民間企業は動きやすいので、企業が学生のやりたいことを応援するような取組がもっとあってもよいのではないかと思った。
大学生を採用したいと思っても、地元企業を対象にした企業説明会等がある高校生とは違い、大学生と対面で会える機会はほとんどないので、学生と企業が何かに一緒に取り組む機会を民間企業同士で手を取り合って作っていければと考えている。
フットサル大会は今年度も開催予定。知っていれば支援したかったという企業がたくさんあったので、今後もこうした取組を継続していきたい。

（局長）
新たに取り組もうとしていることがあれば教えてほしい。

（Ｄ氏）
採用活動を通じて、にかほ市ではアパートや家が不足しているということが分かった。その一方で空き家はたくさんあるので、空き家を整備して新規採用者や移住者等に住まいを提供できればと考えている。

（局長）
Ｅさんは、アウトドアマウンテントレーナーとして、山登りに挑戦する人たちをサポートする活動をされているが、Ｅさんにとって「鳥海山」はどのような山なのか。

（Ｅ氏）
アウトドアマウンテントレーナーは山岳ガイドと違い、登山に臨む前の準備段階から当日のサポートも行う。
鳥海山は神様のような、いつも見守ってくれている存在。鳥海山は多くの山伏たちが修行した信仰の山で、麓に降りてきた山伏たちから番楽など様々な文化が伝えられた。自身も番楽やチョウクライロ舞を継承しており、そういった文化や土壌が自分を作ってくれたと思っているので、鳥海山は特別な山である。
鳥海山の頂上を目指す９つのルートのうち８ルートを制覇した。色々な角度から鳥海山をみて、誰よりも鳥海山を知る男になりたいと思っている。鳥海山についてもっと多くの人に知ってもらいたい。

（知事）
天気のいい朝、鳥海山は神々しい。登っても変化に富んでいるのでおもしろい。

（Ｅ氏）
鳥海山は見てもいいし、登っても楽しい山。海に近いので、まるで山が海から生えているような景色が見られる。

（局長）
由利地域のアウトドアの可能性をどのように感じているか。

（Ｅ氏）
この地域はポテンシャルが高いと感じている。海と２千メートル級の山がすぐにそばある。スケートパークも新しくできたので、いわゆる横乗りと呼ばれるスケートボード、サーフィン、スノーボードが全て楽しめる。夏はサーフィン、冬はスノーボードというふうに一年を通して遊べるとても恵まれた環境。鳥海山のバックカントリースキーでは、まるで海に向かって滑っているような感覚が味わえる。
地元の人は「ここは何もないところだ」というが、県外から来た人には「ここはすごい！」とよく言われる。地元の人でも遊び方を知らない人が多いので、地元で楽しむ遊び方やこの地域の魅力をもっと感じてほしいと思う。

（局長）
Ｅさんは、鳥海山小滝番楽やチョウクライロ舞の担い手としても活動されているが、今後やりたいと思っていることはあるか。

（Ｅ氏）
小さい頃から伝統芸能に対する憧れがあり、子どもの頃は番楽ごっこをして遊んでいた。今の子どもたちは様々な楽しみがあるので、伝統芸能に憧れる子どもは少なくなっているかもしれないが、担い手が高齢化してきているので、参加の間口を広げていきたいと考えている。今までは長男しか継承できなかったが、今は次男でも継承できるようになったものもある。次は女性、地域外の人と間口を広げることによってまだまだ続けていけるのではないかと思っている。

（知事）
国民文化祭を秋田で開催した際に、電線もない鳥海の山の中で歌舞伎の勧進帳を上演したことがあった。屋外でやるとまるで何百年前に戻ったような臨場感があった。

（局長）
今までのやり方では伝統の継承が難しいこともあると思うが、皆さんの反応はどうか。

（Ｅ氏）
伝統を継承できないというのが一番避けたい事態なので、変化を前向きに捉えている人が多い。笛などは別の地域の人に助っ人を頼んだりして、続けていくために何ができるかを考えている。多くの人に知ってもらうということも大事だと思っているので、ＳＮＳでの情報発信にも力を入れている。

（知事）
県北にも番楽がたくさんある。伝統芸能はインバウンド観光の資源になり得る。首長自らコスチュームを着て観光ＰＲに力を入れているところもある。とにかくまちづくり、地域づくりは楽しくなければいけない。

（局長）
Ｆさんは関東から秋田にＵターンし、夏場は鳥海山木のおもちゃ館に、冬場は矢島スキー場に勤務されているということだが、秋田に戻ってからの活動状況を教えてほしい。

（Ｆ氏）
12 年前秋田に帰ってきて、スノーボードを軸に活動したいという思いがあった。スノーボードをやっている人はたくさんいるのに大会が少なく、パフォーマンスを披露する場所がなかったので、スノーボードの大会を主催した。
大会を開催したことによって、当日だけでなく事前練習など、県外からも多くの参加者が矢島スキー場に来てくれるようになった。
また、スノーボードをやったことがない人にもぜひ始めてほしいという思いから、スノーボードウェアのファッションショーとＤＪイベントを融合させたイベントも開催した。３年開催して、毎回 200 人以上が集まったが、このイベントをきっかけにスノーボードを始めてくれた人もいた。

秋田はいい雪が降るが、スキー場までのアクセスが不便。道路を拡張するなどしているが、シャトルバスがあると学生や子どもも遊びに来てくれるのではないかと思う。市にも要望を出しているが、アクセスをよくするというのは簡単にはできないので、県にもぜひバックアップしてほしい。

（局長）
スノーボードのほかにスケートボードやサーフィンもやっているという人は多いのか。

（Ｆ氏）
スノーボードをする人がスケートボードもしたり、サーフィンをする人がスノーボードもしたりしている。にかほ市にはスケートパークができたが、しっかりと整備されたスケートボードパークが由利本荘市にはない。何年も前にスケートボード愛好家の署名を集めて由利本荘市にスケートパークの整備を要望したことがあったが、その時はまだ知名度が低かったため実現しなかった。今はスケートボードがオリンピック種目になって知名度が上がったので、にかほ市だけでなく由利本荘市や秋田市にもスケートパークがあったら楽しいのではないかと思う。スケートボードは街全体で盛り上げていけるスポーツなのではないかと思っている。

（知事）
花輪スキー場のように全国大会を開催するような会場の整備は県が行っているが、地域のものは市町村が整備するという役割分担をしている。

（Ｆ氏）
スノーボードのスロープスタイルのコースの縮小版を矢島スキー場で作っている。オリンピックを目指すとまでいかなくても、もっとうまくなりたい、もっと楽しみたいという人たちの気持ちに応えていきたい。
この地域はスノーボード、スケートボード、サーフィンと一年を通じて遊べる場所なので、そういった魅力をもっとＰＲしていければと考えている。

（Ｂ氏）
スノーボード好き、スケートボード好き、サーフィン好きなど、それぞれがやりたいことがリンクすると、そこにコミュニティが生まれ、そのスポーツを楽しめる複数のスポットを回るという流れもできるのではないか。

（知事）
観光はただ風景を楽しむだけでなく、そこに行って何をするかが重要。また、一箇所ですべて完結するのではなく、宿泊はここ、買い物はここというように複数の市町村が役割分担すればネットワークができる。
場所が悪いから人が来ないというのは間違い。いい物があれば場所が悪くても人が来る。どこにもないユニークな場所や魅力があるところには人が集まる。

（Ｂ氏）
同じような施設が隣り合った市にあったとしても、必ずしも客を取り合うのではなく、共存してつながりができていくこともあるのではないか。

（Ｆ氏）
同じようなものを作るのは決して悪いことではない。むしろ相乗効果しか生まれないと思う。例えば、スケートボードが好きな人は、複数スポットがあればそこを全部回ってみようと考えると思う。
少子化の影響で学校の統廃合が進んでいるが、廃校を活用すれば冬でも遊べる場所を作れるのではないか。

（Ｂ氏）
秋田は雨や雪が多いところなので、屋内で遊べる場所ができればいいと思う。

（知事）
廃校は管理費がかかるので維持が大変だが、体育館だけ残すなどの方法もある。美郷町では宿泊施設に改修し、大館市では産業施設として活用している。

（Ｆ氏）
管理費がかかるのは当然だと思うので、利用者に費用を負担してもらえばよいと思う。魅力のある遊び場をつくり､費用も負担してもらうことで施設が継続できるのではないか。

（知事）
アメリカでは寄付という形で学童野球の練習試合でも入場料をとっていて、用具代等に充てている。公民館の利用料金は、土日しか利用できない共稼ぎの人たちよりも、仕事をせず平日に利用できる人の方が余裕があるということで平日を割高に設定しており、施設の運営は黒字である。必要以上に高い料金をとる必要はないが、電気代だけでいいので、しっかり費用を負担してもらうことで持続可能な施設になる。

（Ｂ氏）
スケートパークだけあってもそれだけでは廃れてしまうので、プラスアルファでそこに行けばこれも楽しめるというものがあったらいいと思う。

（知事）
公共施設を無料にしている市町村と利用料をとっている市町村がある。無料にしているところではそれが当たり前になってしまうので、途中から費用を徴収しようとすると住民に反対される。市町村合併の際、その調整が大変だった。
少額でもいいので子どもたちの大会で寄付するなど、そういう文化があればと思う。

知事総括
少子高齢化というと暗いイメージがあるが、皆さんの話を聞いて元気が出た。皆さんのような人がいると地域が明るくなる。明るい地域には人がやってくる。
皆さんが物事を前向きに捉えて、しっかり地道に活動している話を聴いて感激した。様々な課題があるが、社会を変えていくのは若い人の力であり、こういった風潮をどう地域全体に広げていくかが重要。こういった活動に参加する若者をいかに増やしていくかが、地域の活力につながると思う。
これからもぜひ、あれこれ考えず、皆さんの思うように自由な発想でこの地域をよくしていってもらいたい。